序　文

京都医療センターのアニュアルレポート平成30年度版をお届けいたします。近年、国は超少子高齢化時代の到来に備え、「地域医療構想」を実現すべく、地域包括ケアシステムの構築を推進いたしております。本院は京都府南部における最も重要な基幹病院であり、地域のみなさまのニーズに応え「高度急性期医療」を中心的に担う総合病院として、引き続き、全力を尽くしてまいります。そこで、平成最後の1年間を振り返りますと、本院と近隣医療機関との連携はますます緊密となり、紹介患者数、救急入院数、および手術数が増加し、在院日数は短縮し、「地域医療構想」の理想に近い状況となっています。幸い、病院経営もV字回復を達成することができました。これも地域のみなさまの温かなご支援と全職員の努力の結果であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

さて、近未来を展望しつつ本院の運営方針を述べますと、診療の第一の柱はもちろん「救命救急医療」です。救急専門医が24時間複数常駐する「救命救急センター」を中心に、脳卒中、心筋梗塞、消化管出血、産科危機的出血などに対して、血管インターベンションを含め即座に対応できる体制をさらに充実させてまいります。また、新たに「ハイブリッド手術室」の建設にとりかかります。高齢化により心弁膜疾患が増加し心不全の発症が増えており、画像を見ながらカテーテルによる弁置換術などの心臓手術（TAVI）、あるいは精緻な整形外科手術を行えるようになります。ぜひご期待ください。

本院の第二の柱は「がんセンター」機能です。従来から、すべての臓器のがんに対して各診療科が高いレベルのがん診療を行える体制を整えており、本年から「がんゲノム医療」の保険診療も開始いたします。令和元年には、ロボット手術のダ・ヴィンチも最新型に更新いたしました。また、建設中であった「高精度リニアック治療棟」も令和2年から稼動いたします。いよいよ本院には、真の「高度型のがん治療センター」としての機能がすべて整うこととなりますので、皆さまのご期待にさらに答えてまいります。

さて、本院の第三の柱として、今後、「予防医療」にも力を尽くしてまいります。わが国は医療の進歩によって世界に類を見ない長寿社会を達成しましたが、今、健康長寿の実現が喫緊の課題であり、地域に密着した未病の取り組みが必須です。本院の「臨床研究センター」は糖尿病センター、内分泌センターとして機能し、肥満・フレイル対策、スポーツ医学、認知症予防にも力を注いでまいりました。このセンターを、近々に「予防医学・先端医療研究センター」として一新し、新たなビルを建設して、地域のゲノムコホート研究の基地とし、健康長寿のための臨床研究の発展と先端的医療の研究開発を目指します。また、このセンターを、地域の皆さまが健康増進のために楽しき集える場所にしたいと考えています。

今後も本院に対しまして、みなさまの暖かなご支援をよろしくお願いいたします。

院長　小西　郁生